

組織特性を生かした 男女共同参画の視点からの 災害対応ネットワークの重要性

～男女共同参画推進連携会議「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進チーム」の取組から見たこと～

ステップ1

「男女共同参画の視点からの防災・復興」について知る

- ▶ 詳しくは、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」を参照してください。

男女、防災、取組指針

検索

ステップ2

自分の属する組織の特性を知る

- ▶ 「広域をカバーしている？」
- 「被災された方に直接アプローチできる？」
- 「専門性は高い？低い？」
- 「意思決定のスピードは速い？」等・・・

ステップ3

自分の組織を補う他組織と連携しよう

- ▶ 一団体だけでできる支援は限られています。せっかくの支援も、連携がないために有効に機能しないことがあります。平常時から他機関と連携していると災害時にも速やかな支援が可能になります。

男女共同参画の視点を持ちながら、
さまざまな組織と日頃から協働して
防災・復興の取組を広げていきましょう



男女共同参画

内閣府男女共同参画局 男女共同参画推進連携会議
「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組推進」チーム

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

電話 03(5253)2111

ホームページ <http://www.gender.go.jp/>

男女共同参画の視点からの 防災・復興の取組推進

東日本大震災の現場では・・・

避難所に授乳や
着替えをする場所がない

粉ミルクと
哺乳瓶はあるけれど、
お湯がなく、
消毒もできない



避難所のリーダーは
男性ばかりで
女性用品などを要望しにくい



仮設住宅では
男性が引きこもりがち



まさかのときに備え常日頃から
「男女共同参画の視点からの防災・復興」を
意識することが大切です！
そのポイントは・・・



東日本大震災の経験から見えてきた男女共同参画に係る課題とその後の対応

【課題】

1 防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画していない

- 都道府県防災会議の女性委員割合：3.6%（12都道府県では女性委員ゼロ）
※平成23年4月時点
- 復興計画策定に当たっての委員会等の女性割合：11.2%
※平成24年4月時点、沿岸38市町村

2 災害対応において男女のニーズの違い等に配慮がない

- 避難所に授乳や着替えをする場所がない／生理用品や女性用下着が不足／避難所運営者が男性のため必要な物資を受け取りにくい・要望しにくい。
- 仮設住宅等における男性の引きこもりや孤立等が問題化。

3 災害が起きてから急に男女共同参画の視点で対応しようとしてもできない

- 内閣府は、発災直後から男女共同参画の視点を踏まえた対応の要請を行ったが、現場での浸透は不十分。

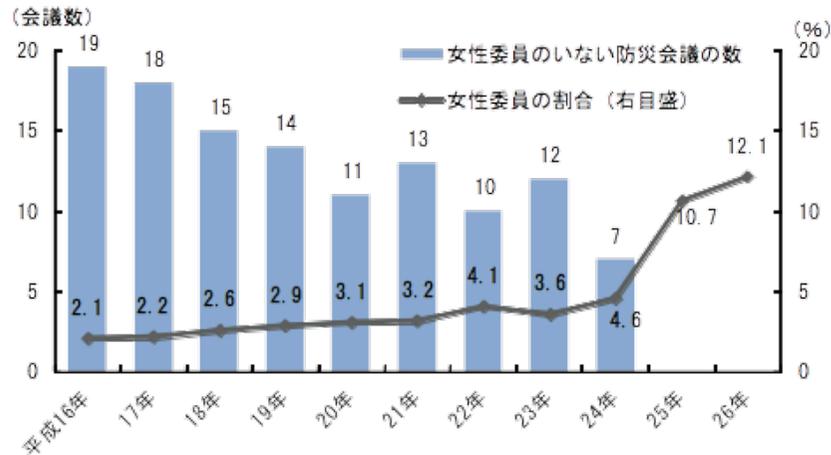
【主な対応】

- ✓災害対策基本法を改正して、地方防災会議の委員に女性を任命しやすくしました。（平成24年6月）
- ✓地方公共団体に対して女性の参画拡大を要請しています。

- ✓地域防災計画の指針となる防災基本計画を修正し、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制について、より具体的に記載しました。（平成23年12月、24年9月、26年1月）

- ✓平常時から男女共同参画の視点からの災害対応について関係者が理解しておくことが重要との観点から、「**男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針**」を作成しました。（平成25年5月）

<参考> 都道府県防災会議の委員に占める女性の割合の推移



平成25年4月以降、女性委員のいない都道府県防災会議の数はゼロになり、女性委員の割合も増加している。
(備考) 内閣府男女共同参画局調べ

男女共同参画の視点から防災・復興の取組を推進するにあたって・・・

チェックリスト

- 政策・方針決定過程に女性は参画していますか。
- 女性と男性の両方の声をきちんと聴いていますか。
- 要介護高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊産婦等のニーズに配慮していますか。
- 女性と男性とでは与える影響が異なるかもしれないということを意識していますか。
- 特定の活動が片方の性に偏るなど、性別や年齢等により役割が固定化されていませんか。

